

向日市

- 緑と古墳のある都市公園がオープン
- 成人病にうちかとう
- 宮崎さんを救おう
- 買いますに手助け
- 人形劇を楽しく演じる
- 移動防火展で防火PR
- 水道管にもオーパー
- 一月のお知らせ(四ページ)

“緑と古墳のある 勝山都市公園”がオープン

市で初の都市公園



(市民の利用を待つ勝山公園)

“古墳のある都市公園”をキャッチフレーズに整備をすすめていた、「勝山公園」(向日神社境内)が、12月1日オープンしました。

この公園は、市民のいこいの場として、まちづくり事業のひとつに、緑と古墳を生かした、市の都市公園第1号です。

待望のいこいの場が開園

都市公園第1号を祝う開園式を、午前11時から、勝山公園で中山市長、木村議会議長ら約30名余りが出席し、行ないました。

はじめに公園入口で、みんなが見守る中、中山市長と木村議会議長で紅白のテープにハサミ入れ、ついでに除幕式を市長と議長が左右にわかれ、さっと除幕が行なわれると、勝山公園とほられた銘板がうかび、式の出席者一同から大きな拍手が起り、開園を祝いあいました。

また、開園を記念し、中山市長と木村議会議長が、モクセイの木を記念植樹しました。

そのあと中山市長は、「都市化がすすむにつれて、緑のある安らぎの場が必要となってきました。この向日神社一帯は、市でも緑のある由緒ある地です。この地に、まちづくりのひとつ、都市公園をつくったことはたいへん意義深いものがあります。市民のいこいの場として、緑と古墳を生かしたこの公園を、市民が広く利用していただくことを期待しています。」

とあいさつし、式を終えました。

勝山公園は、面積6,800平方メートル、昭和46年度に向日神社から6,443万円で購入し、昭和47年度から整備費1,065万円(うち補助金300万円)をかけて整備をすすめていたものです。

公園内には、もみじ、さくら、いちょう、さつき、あざみなどを植樹、こどもたちの遊戯施設(ブランコ、ジャングルジム、すべり台など)や休憩所、文化財保護マークを型どったベンチ、水銀灯、散策路などを設けています。

また、この公園でもっとも特色があるのは、なんといっても、「元種荷古墳」をそのまま生かして整備したことでしょう。古墳を生かした公園とし、市民のいこいの場としての市民の利用が期待されます。

なお、同公園は、昭和49年度には、向日神社本殿のうらがわ(公園の南側)の用地2,000平方メートルを借り受け、整備拡張する計画です。



(開園を記念し、市長と議長でモクセイを植樹)

“その一杯を ことわる勇気が 事故を断つ”

＜飲酒運転を追放しよう＞

新年あけましておめでとうございます。ことはトラ年。何かにつけて、お酒を飲むと大トラとかよくいわれます。

市民のみなさん、車に乗っているときや車に乗ろうとするときぐらには、はくの名前を出さないようにしてください。

新年会や遠来の客が見えたりすると、どうしてもお酒を出す機会が多くなってきます。

ことははくの名前。はくの名前を汚さないように、ことしこそは大トラ運転を市民みんなで追放しましょう。

(トラ君からの年賀状)

“ことしも飲酒運転はやめましょう。”

